

第57回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会in熊本 「熊本震災からの復旧、復興、発展を」をテーマに開催



陸上貨物運送事業労働災害防止協会は、11月11日(木)、熊本城ホールメインホール(熊本県熊本市)にて第57回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会in熊本を開催しました。本大会は本年が熊本震災から5年となることを機に「熊本震災からの復旧、復興、発展を」を大会テーマとしました。

昨年の大会は新型コロナウイルスの感染拡大のためやむなく中止しましたが、安全、安心な大会とするため新型コロナウイルスの感染防止対策を十分に講じるとともに(後記参照)、規模を縮小し、全国から700名近い会員、関係者が参加されました。本大会の開催に当たり開催地支部の熊本県支部をはじめ、九州・沖縄ブロック各支部や関係者の皆様に多大なご協力をいただきましたこと、また、多くの方々にご参加いただきましたことに感謝申し上げます。

また、本大会の様様は一部を除きライブ配信及び期間限定オンライン配信を行いました。

大会式典

大会は13時から開催され、国歌演奏に続き、陸運業にご精励され、不幸にして労働災害によりお亡くなりになった方々、熊本地震をはじめ、自然災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りして黙祷が行われました。

開会の辞

大会開催地支部の藤木徳昭熊本県支部長から開会の辞として「全国津々浦々から『火の国熊本』にご参集いただき、衷心より厚く御礼申し上げます。



写真1 藤木熊本県支部長

熊本震災から5年となるのを機に、本県において全国大会が開催されることを熊本県支部長として誇らしく思うとともに新型コロナ禍という時期にも関わらず開催にご尽力をいただいた関係の皆様へ感謝申し上げます」旨の辞とともに、大阿蘇の山脈をはじめとした熊本県の名所とグルメを紹介されました。

大会式辞

当協会渡邊健二会長から「本大会は、陸上貨物運送事業における労働災害の防止と働く人々の健康の確保に向けた取組について決意を



写真2 渡邊会長

新たにし、なお一層の取組を誓い、もって業界の労働安全衛生意識の高揚を図ることを目的として、昭和41年から開催し、本大会で57回を迎えることとなりました。

本年は、熊本震災から5年となるのを機に『熊本震災からの復旧、復興、発展を』をテーマとして開催することといたしました。今回、全国の会員代表者がここ熊本に参集し、熊本震災からの復旧、復興と更なる創造的発展を支援するとともに、陸運業に従事する労働者の安全と健康の確保を誓うことは大変意義深いことと考えております。

本大会では、労働災害の防止に顕著な功績をあげられました事業場、団体、個人の方々等への表彰を行うこととしております。受賞されます皆様方には、これまでのご努力、ご精進に対し深く敬意を表しますとともに、心

からお慶びを申し上げます。

さて、陸運業における労働災害は、会員事業場のたゆまぬご努力により、長期的には減少傾向にあるものの、最近、増加傾向に転じていることが懸念されます。死亡災害については、昨年は87人となり過去最少を記録しましたが、死傷者数は2.8%増加し、今年に入ってから、死亡者・死傷者ともに増加しており、危機的状況となっております。特に荷役関連災害がその多くを占めている状況にあります。

先日、厚生労働副大臣から陸運業における労働災害防止に向けたより一層の取組について要請をいただきました。この要請を踏まえ、当協会としても、荷役作業時の労働災害の減少に向けて、さらにその対応を徹底してまいります。特に、強く要請のありましたロールボックスパレット及びテールゲートリフターの取扱いに関しましては、当協会が今年度実施しております、陸運事業者や荷主等への荷役ガイドラインに関する講習会、個別事業場へのコンサルティング等の機会をとらえて、チェックリストの活用による事業者の取組等を強力に推進してまいります。また、効果的な労働災害防止対策を実施している会員事業場の好事例の収集、広報にも一層取り組んでまいります。

陸運業においては、高齢化、長時間労働等の影響により、脳・心臓疾患、精神障害等の労災認定件数が、依然として全業種の中で突出して多い状態が継続しており、さらに健康診断の有所見率も高水準で推移していることから、労働者の健康確保も大きな課題となっております。当協会においても、長時間労働の削減等、過重労働解消に向け、その周知啓発に取り組んでまいります。

当協会では、これらの労働災害防止対策や健康確保対策の着実な実施により、会員の皆様とともに労働災害防止計画の目標の達成を目指してまいります。

皆様方におかれましては、本大会を契機に、これまで以上に充実した実効ある労働災害防止活動を展開されますようお願いいたします」との大会式辞がありました。

祝辞

続いて、ご来賓の方々からご祝辞をいただきました。

厚生労働大臣祝辞（代読：厚生労働省労働基準局武田康久安全衛生部長）（要旨）

「感染防止対策を実施していただいた上で、大会が開催されますことを、お慶び申し上げます。

陸運業の労働災害発生状況を見ますと、死傷者は3年連続で建設業の死傷者数を越え、増加が続いている状況となっています。特に荷役作業中の労働災害が約7割を占めていることから、『荷役ガイドライン』に基づく基本事項の徹底を図るとともに、『荷役5大災害』である、①墜落・転落、②荷崩れ、③フォークリフト使用時の事故、④無人暴走及び⑤トラック後退時の事故の防止に向け、一層の取組をお願いします。

死亡災害の約4割を占める交通事故への対策については、『交通労働災害防止のためのガイドライン』や改善基準告示を遵守していただき、無理のない走行計画の作成、日々の点呼による運転者の睡眠不足を含む健康状態の把握、定期健康診断の確実な実施をお願いします。」

国土交通大臣祝辞（代読：国土交通省河原畑徹九州運輸局長）（要旨）

「国土交通省では、今年3月に策定した『事業用自動車総合安全プラン2025』において、事業用自動車の事故削減目標を定めており、その実現に向け、安全規制の強化や最新の事故防止機器導入への支援など総合的な安全対策に取り組んで参ります。また荷役作業中



写真3 武田厚生労働省労働基準局安全衛生部長

に発生する労働災害に対しても、厚生労働省と連携を強化して適切に取り組んで参ります。今後とも、死亡災害・労働災害の防止に向けて、事業者の皆様方におかれまして、一層のご理解、ご協力をお願いします。」

警察庁長官祝辞（代読：警察庁中野裕文九州管区警察局長広域調整部長）（要旨）

「昨年6月に関係業界における運転手不足という課題に対処するため、運転免許取得の前後にわたり安全対策を講じた上で、大型免許や中型免許などの受験資格の引き下げを認める

改正道路交通法が成立しました。この改正法は令和4年6月までに施行されます。この新たな制度により将来高い運転技術を備えた若手ドライバーが数多く輩出されることを期待しております。安全で快適な社会を実現するためには、一人一人の安全意識の高揚を図ることが重要です。皆様方には本大会を契機にこれまで以上に実行ある取組を展開していただくことをお願いします。」



写真5 中野警察庁九州管区警察局長広域調整部長

熊本県蒲島郁夫知事祝辞（要旨）

「貴協会におかれましては、フォークリフトの技能検定や荷役作業の安全講習会などを通じて、業界の安全な職場環境作りに取り組んでお

本大会は熊本震災からの復旧復興、そして発展をテーマとされています。災害発生時には陸運業のネットワークと機動力を生かし、迅速な物資輸送にご協力をくださり、改めて感謝申し上げます。皆様のご支



写真6 蒲島熊本県知事



写真4 河原畑国土交通省九州運輸局長

援のお陰を持ちまして、阿蘇へのアクセスルートの回復や熊本城の天守閣復旧など、熊本地震の総合的復興が目に見える形で着実に進んでおります。是非火山と共生する阿蘇や復興途上の熊本城、また、大小様々なくまモンがお迎えするクルーズ拠点『くまモンポート八代』など、熊本が誇る観光スポットに足を運んでいただければ幸いです。」



写真7 蒲島熊本県知事とともに、くまモンも来てくれました

熊本市大西一史市長祝辞（要旨）

「熊本地震の発生直後は、市民の皆様はペットボトルの水1本を届けることすらできない、そういった状況でした。その時に改めて人々の生活を支える、こ



写真8 大西熊本市長

この物流の重要性というものを再認識をさせられたところです。現在では、本市における仮設住宅等の入居者の皆さんの99%以上が住まいの再建を果たされるなど、地震からの復興の歩みを着実に進めているところです。

このような中、本大会が震災からの復旧復興発展をテーマにここ熊本で盛大に開催されますことは大変意義深く、また我々にとってありがたく、熊本の復興に向けた大きな励みになるものと確信をする次第です。

本市では、運輸業へ就職された方への就職奨励金など人手不足解消に向けた取組を進めると同時に、国や県と連携して、長時間労働の是正をはじめとした働き方改革を進めておりますので、皆様方にはなお一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。」

謝辞

平成28年に発生した熊本地震において、陸災防各都道府県支部をはじめとして、各都道府県トラック協会の皆様から多大なご支援を受けたことに対し、熊本県トラック協会住永豊武会長が謝辞を述べられました。



写真9 住永熊本県トラック協会会長

表彰

始めに労働災害防止に著しく貢献し、模範となる事業場と団体、個人をたたえる安全衛生表彰を事業場・団体（44事業場・1団体）、個人（31名）に対し行いました。続いて永年勤続表彰（4名）、優良フォークリフト等運転者表彰（148名）を行い（受賞者名簿は本誌No.628に掲載）、次いで、安全衛生標語の表彰を行いました。各表彰の代表の方々へは渡邊会長から賞状等が贈られました（大会当日撮影の各賞の受賞者記念写真を11頁に掲載）。



写真10 渡邊会長から表彰が行われました

また、本年度「緑十字賞」を受賞された方々を紹介しました（受賞者のお名前は本誌No.628に掲載）。

第36回全国フォークリフト運転競技大会開催報告

「第36回全国フォークリフト運転競技大会」の開催結果、入賞者の紹介等の報告を行いました。また、11月9日に各部門優勝者が厚生労働大臣を表敬訪問されたことを紹介しました。

大会宣言

本宣言は、参加者の総意により承認されるもので、佐竹陽一副会長・福岡県支部長による大会宣言（宣言全文は6頁に掲載）の提案の後、満場の拍手により採択されました。



写真11 佐竹副会長・福岡県支部長

アトラクション

大会式典の後、熊本城おもてなし武将隊による演舞が行われました。演舞の終わりには労働災害ゼロを目指して勝どきをあげました。肥後熊本の名だたる武将達の舞に参加者は大きな拍手を送っていました。

写真12 アトラクション 熊本城おもてなし武将隊による演舞



講演

厚生労働省武田康久安全衛生部長より「労働安全衛生行政の動向について」と題して講演が行われ、働く人の安全や健康をめぐる状況や現在の厚生労働省の取組について説明が行われました（要旨を7頁に掲載）。

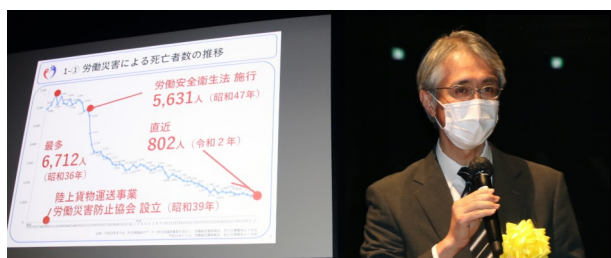


写真13 武田厚生労働省労働基準局安全衛生部長

事例発表

会員事業場が取り組んだ安全衛生活動の事例を熊本県支部所属の九州産交運輸株式会社安全管理部次長福田元様から「安全衛生教育の推進による災害撲滅の取組」と題して発表いただきました（要旨を8～9頁に、資料を13～29頁に掲載）。



写真14 福田九州産交運輸安全管理部次長

特別講演

本大会の特別講演は、熊本城総合事務所首席審議員津曲俊博様から「熊本城 復旧への挑戦」と題した講演が行われました。

熊本城の復旧・復元プロジェクト統括や熊本城総合事務所長を歴任された津曲様による平成28年熊本地震の甚大な被害状況と100年先を見据え最新の技術も活用した復元への状況に関する講演は、江戸時代から明治時代にわたる熊本城の災害と修理履歴の解説も交えて行われ、熊本城の復元は国の重要文化財建造物を含む文化財・特別史跡の復元であるとともに、熊本地震からの復興の象徴のひとつであることを解説されました（要旨を9～10頁に掲載）。

なお、特別講演は、当初、熊本城総合事務所所長網田龍生様の講演を予定しておりましたが、健康上の理由により急きょ津曲様にご講演いただきました。



写真15 津曲熊本城総合事務所首席審議員

閉会の辞

次回大会（令和4年11月10日（木）開催）開催地支部の喜多村久至広島県支部副支部長から「広島でも熊本での大会のように素晴らしい大会を開催したいと考えております。心からお待ちしております。ご安全に！」旨の閉会の辞を述べられ、今大会は17時に終了しました。



写真16 喜多村広島県支部副支部長

大会宣言

陸運業は、我が国の経済活動と国民生活を支える物流の中核として重要な役割を担っており、その役割を果たしていく上で、働く人々の安全と健康を確保していくことは極めて重要な課題である。

陸運業における労働災害は、今年、死亡者数、死傷者数ともに増加し、憂慮すべき状況にあり、9月末には厚生労働副大臣から、特に増加傾向にあるロールボックスパレット等の労働災害減少に向け一層の取組の要請を受けている。

陸運業界は、引き続き厳しい事業環境に置かれているが、我々は、健康で安心して働くことができる職場環境を実現するため、次の取組を重点に、本部、支部、会員事業場が一体となってその推進を図ることをここに誓う。

- 一 安全衛生水準向上に向けた活動を一層推進するため、フォークリフト荷役技能検定制度や陸災防労働災害事例生成ツールの周知、充実、活用促進を進めるとともに、フォークリフト運転技能講習等の適正な実施に努める
 - 一 多発している荷役作業時の労働災害防止のため、「陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策ガイドライン」に基づく墜落・転落災害の防止対策を一層推進するとともに、ロールボックスパレット、テールゲートリフターの安全な取扱いを周知する
 - 一 荷主等の構内における安全確保対策のため、荷主等との連絡協議会等を活用した一層の連携を進めるとともに、荷主等講習会や個別事業場へのコンサルティング等を通じた、荷役災害防止活動の推進を支援する
 - 一 死亡災害の半数を占める交通労働災害の防止対策の一層の推進を図る
 - 一 健康障害防止のため、定期健康診断の完全実施による事後措置の徹底、メンタルヘルス対策等の一層の充実を図る
- 以上、宣言する。

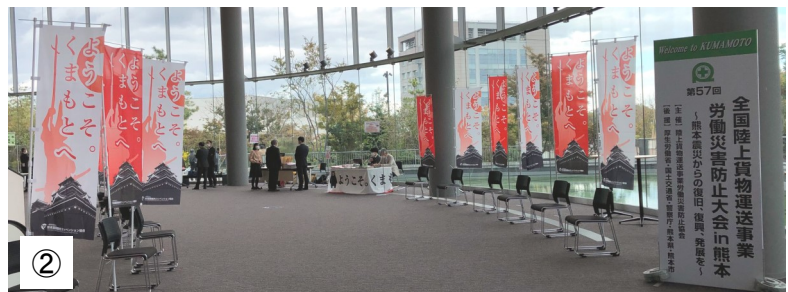
令和3年11月11日

第57回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会in熊本

大会の様子



①



②



③

- ① 入場口や参加受付ブースにて「熊本城おもてなし武将隊」が参加者をお出迎えしてくれました。加藤清正公の娘、八十姫と記念撮影をしている参加者もおられました。
- ② 受付近くには歓迎ののぼり旗が設置されました。
- ③ 大会式典開始前には「熊本地震発生直後、平成28年4月14日から16日までのドキュメント」を上映しました。

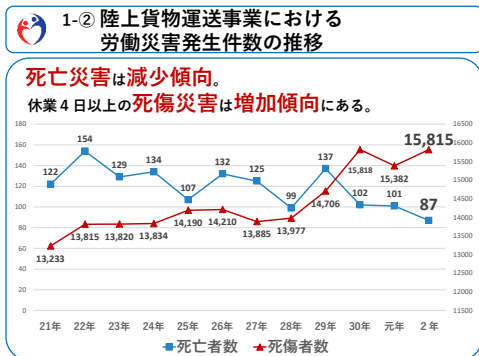
講演「労働安全衛生行政の動向」(要旨)

厚生労働省 労働基準局 安全衛生部長 武田康久

1 陸運業における働く人の安全や健康をめぐる状況

(1) 労働災害発生傾向

死亡災害は減少傾向。死傷災害は増加傾向にあります。



(2) 死亡災害発生状況 (事故の型別)

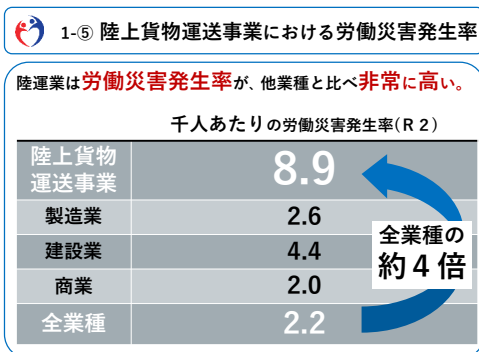
「交通事故(道路)」は減少傾向にあります。が、「墜落、転落」、「はさまれ、巻き込まれ」は高止まりの状態です。

(3) 死傷災害発生状況 (事故の型別)

「交通事故(道路)」は減少傾向にあります。が、「はさまれ、巻き込まれ」は高止まりし、「墜落、転落」、「動作の反動・無理な動作」、「転倒」、「激突」は増加傾向にあります。

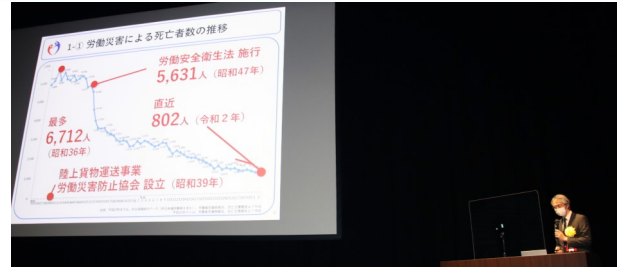
(4) 労働災害発生率

陸運業は労働災害発生率が、他業種と比べ非常に高くなっています。



(5) 高年齢労働者の労働災害の特徴 (年齢別・業種別の傾向)

- 死傷災害のうち60歳以上の比率
平成20年18%⇒令和2年27%
- 災害発生率(千人率)は、業種毎に違いはありますが若年層と高年齢労働者で高く、陸



運業はその傾向が顕著です。

2 労働安全衛生行政の動向

～現在の厚生労働省の取組を中心に～

(1) 陸上貨物運送事業 講演 武田康久安全衛生部長 対策

- 荷役ガイドラインに基づき、陸災防と連携し、基本的な安全対策の徹底を図ってまいります。また、荷役作業に従事する労働者に対する安全衛生教育の在り方について検討を進めます。
- 国土交通省と連携し、荷主事業者に対し、長時間の荷待ち時間の削減や荷役施設・設備の改善、荷役作業の安全担当者の配置等について支援を要請します。
- 荷役ガイドラインの見直しを含め、荷役作業の実態に即した対策を検討します。

(2) 高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン(エイジフレンドリーガイドライン)に関する取組

- 個別事業場に対するコンサルティング等を実施します。
- 中小企業に対する支援制度(エイジフレンドリー補助金)事業を実施します。

(3) 職場におけるメンタルヘルス対策の推進

- ストレスチェック制度の実施徹底、メンタルヘルス対策の取組促進についての指導を行います。
- 地域産業保健センター(地域窓口)等における事業場の取組に対する支援を進めます。
- 事業場のメンタルヘルス対策の取組への助成金事業の実施します。

事例発表「安全衛生教育推進による災害撲滅への取組」(要旨)

九州産交運輸株式会社 安全品質部 次長 福田 元

1 会社概要

1942年(昭和17年)創業、1978年(昭和53年)に設立し、熊本市に本社を構えています。創業以来70年余、九州を中心に関西、関東に至るまで、さまざまな分野のお客さまに物流サービスを提供させていただき、現在は約700社のお客さまとお取引をさせていただいています。

2014年5月、KONOIKEグループの一員となり、さらなるメディカル事業の強化に加え、中核事業である環境区域事業、農産関連事業、3PL事業、航空事業、鉄道事業、特輸事業の専門性を高め、これまで以上の高付加価値物流サービスをご提供していく所存です。

2 企業理念

2. 企業理念

九州産交運輸は、KONOIKEグループの企業です。
KONOIKEグループは、物流の枠を超え、製造、空港業務などを通じ、社会課題の解決と革新に挑戦し続けるプロフェッショナル集団です。

<KONOIKEグループの経営理念>
「人」と「絆」を大切に、社会の基盤を革新し、新たな価値を創造します
人を大切にして、人から好かれる。私たちはその尊い価値を知っている。
お客様、生活者、従業員、家族、株主、投資家。
私たちがつながっている、大切な人々を想い続け、真の絆を築く。
それは、人と社会の期待を超える、本物の挑戦を可能にする。
革新していこう、社会の基盤を。創造していこう、人々の暮らしに新たな価値を。

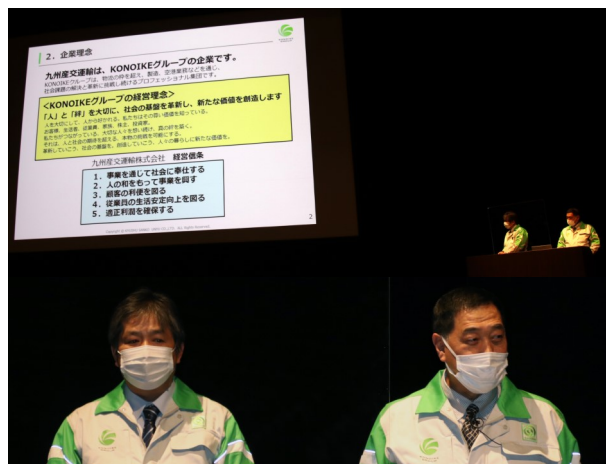
九州産交運輸株式会社 経営信条

1. 事業を通じて社会に奉仕する
2. 人の和をもって事業を興す
3. 顧客の利便を図る
4. 従業員の生活安定向上を図る
5. 適正利潤を確保する

3 安全管理体制

(1)安全方針

- ①経営トップは輸送の安全確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、その実現に向けて主導的な役割を果たします。
- ②経営トップは現場に於ける安全に関する声に真摯に耳を傾け、状況を十分に踏まえつつ、社員に対し輸送の安全の確保がもっとも重要であるという意識を徹底させます。
- ③輸送の安全に関する計画の策定、実行、チェック、改善(PDCA)を確実に実施し、安全対策を不断に見直し、絶えず輸送の安全性の向上に努めます。
- ④輸送の安全に関する情報について、積極的に公表します。



事例発表 九州産交運輸安全品質部福田次長(右)

(2)重点取組

- ①輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守します。
- ②輸送の安全に関する費用支出及び投資を積極的に行います。
- ③輸送の安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置または予防措置を講じます。
- ④輸送の安全に関する情報の連絡体制を確立し、必要な情報を伝達、共有します。
- ⑤輸送の安全に関する教育及び研修に関する具体的計画を策定し、確実に実施します。
- ⑥グループ企業、下請け事業者と協力し安全の向上に努めます。

4 安全衛生教育

(1)管理者研修

- ①職長教育の実施
- ②積卸し作業指揮者講習
- ③はい作業主任者講習
- ④運行管理者講習
- ⑤整備管理者講習

(2)作業職の安全教育

- ①フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育
- ②はい作業主任者講習
- ③積卸し作業指揮者講習
- ④車両系荷役運搬機械等作業指揮者講習
- ⑤フォークリフト運転競技大会研修

9. フォークリフト運転競技大会参加者の研修



熊本県大会	全国大会	鴻池グループ大会
これまで35回の大会に延べ61名が出場し、13名が優勝。	熊本県大会で優勝した13名が出場し、1名が5位入賞。	過去5年間で、毎年出場し、1名がカウンター部門で優勝。
		

大会出場者が職場に戻り、経験を活かし、知識・技能の水平展開を実施。

Copyright © KHKDRI Safety Center Co., Ltd. All Rights Reserved.

9

(3) ドライバーの安全教育等

- ①入社時教育
- ②初任運転者教育
- ③適性診断による個人指導(初任、一般、適齢)
- ④添乗指導
- ⑤事故惹起者教育
- ⑥事故再発防止検討会
- ⑦ドライバーコンテスト大会研修

5 安全対策

(1) 輸送の安全に関する設備等の導入

- ①デジタルタコグラフの全車装着
- ②ドライブレコーダーの全車装着
- ③後方視野確認支援装置(バックアイカメラ)の全車装着
- ④高速道路利用する中型車以上の全車に

モービルアイ(衝突防止補助システム)を装着

- ⑤ETC2.0車載器の全車装着
- ⑥フォークリフトの回転灯の全車装着
- ⑦業務連絡車にクラウド型ドライブレコーダーの全車装着

(2) 健康管理に関する取組

- ①健康診断の実施
- ②睡眠時無呼吸症候群(SAS)スクリーニング検査の実施
- ③ストレスチェックの実施

6 その他

- (1)安全衛生委員会の毎月全店実施
- (2)ヒヤリハット活動から小集団によるKYTの実施
- (3)安全性優良事業所の認定(Gマーク)の全店取得
- (4)働きやすい職場認証制度の認証(一つ星)の全店取得

7 おわりに

九州産交運輸は「安全」を最優先とし、「人」と「絆」を大切に物流のプロフェッショナル集団として、今後もたゆまぬ努力と挑戦を続け、お客様に信頼される企業を目指します。

特別講演「熊本城 復旧への挑戦」(要旨)

熊本城総合事務所 首席審議員 津曲俊博



熊本城総合事務所

特別講演 熊本城総合事務所
津曲首席審議員

1 平成28年熊本地震での熊本城被害

日本三名城とも呼ばれる熊本城を平成28年4月に熊本地震が襲いました。現存する石垣は973面・約79,000㎡に及びますが、そのうち今回の地震で築石が崩落したのは全体の約1割、緩みや膨らみのため積み直しを要すると想定できるのは全体の約3割の面積に及びます。そのほとんどが文化財石垣です。

国指定重要文化財建造物のうち、東十八間櫓・北十八間櫓は全壊し、他11棟も一部倒壊・破損を受け修復が必要になりました。宇土櫓は、五階櫓は破損で済みましたが続櫓は倒壊しました。復元建造物も全て被災しました。うち塀の多くは倒壊し、飯田丸五階櫓・戌亥櫓・数寄屋丸二階御広間など7棟は石垣が部分崩落したために倒壊のおそれが生じました。

平成28年熊本地震の被害

◆平成28年4月14日 21時26分 前震(M6.5、熊本市中央区:震度5強)
平成28年4月16日 1時25分 本震(M7.3、熊本市中央区:震度6強)

◆熊本城の被害(本震後)

国指定重要文化財建造物 13棟全て

県指定重要文化財建造物 1棟

石垣 517/973面

23,600/79,000㎡(崩落229面、8,200㎡)

地盤 70箇所、12,345㎡

再建・復元建造物 20棟全て

公園施設26棟 など → (人的被害0)



頼当御門周辺

被災後

被災前

2 復旧計画の策定

具体的な施策・取組を次の項目とした「熊本城復旧基本計画」を策定し、全体の復旧期間を20年と算定しました。

①被災した石垣・建造物等の保全

②復興のシンボル天守閣の早期復旧

③石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧

④復旧過程の段階的公開と活用

⑤最新技術も活用した安全対策の検討

⑥100年先を見据えた復元への礎づくり

3 天守閣の復旧

天守閣の本格工事は平成29年春から令和3年3月まで行い、6月から一般公開となりました。



天守閣内部公開
(2021年6月2日～)

天守閣前広場側全景

天守閣入口(冠木門)

小型エレベーター

続櫓屋根

クロスダンパーと井戸

入ロースロープ

平左衛門丸側全景

4 復興に向けて

熊本城は特別史跡です。その文化財価値は、石垣・建造物・地下遺構・地形・景観など多岐にわたります。復旧工事を進める中で文化財価値を保全していくためには、工事内容・範囲の根拠として調査研究が重要です。各分野の学識者等からの指導を基づき十分な調査等を行い、しっかりと結論を出し、その結論に基づいて工事を行うことが求められます。調査などを実施するに当たっては最新技術も活用し、場合によっては新たな技術の開発に取り組む必要もあります。

文化財の復旧ですので石垣・建造物ともに最大限元の材を用い、伝統技法による丁寧な復旧を原則としますが、文化財価値を損ねない範囲で現代工法や新材も用いた安全かつ効率的な復旧工事も求められる場合があります。「文化財価値を損ねない」の基準や根拠を得るためにも調査研究は欠かせません。将来の災害にも備えた安全性の確保、耐震性の向上に対し、具体的方法の検討や判断にあたっては根拠に基づき、主に委員会(文化財修復検討委員会)にて議論していきます。

熊本城の復旧事業は、長期間の事業です。国・県等関係機関との連携の継続、市民参画の推進、そして事業実施に必要な体制と予算を維持していくことも不可欠で、多様な課題の解決に向けて努力を続けていきます。

安全衛生表彰等受賞者の方々（大会当日に撮影）



優良賞



進歩賞



功労賞



功績賞



団体賞



永年勤続表彰



優良フォークリフト等運転者表彰



安全衛生標語優秀作品表彰

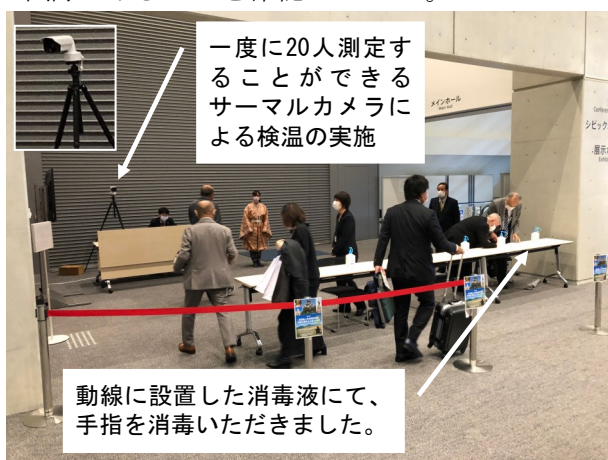
感染防止対策に取り組みました

今回の大会では、当日来場の皆様に安心して参加していただきたく、新型コロナウイルスの感染防止対策に取り組みました。主な取組内容をご紹介します。

受付での取組

参加者の皆様にはマスクを着用いただき、来場の際、手指の消毒を行っていただきました。

また、参加者の検温を行うためのサーマルカメラを設置し、参加者全員の体温が37.5度未満であることを確認しました。



参加券には、感染症発生時の利用のため、氏名、所属支部名、連絡先を記入いただきました。

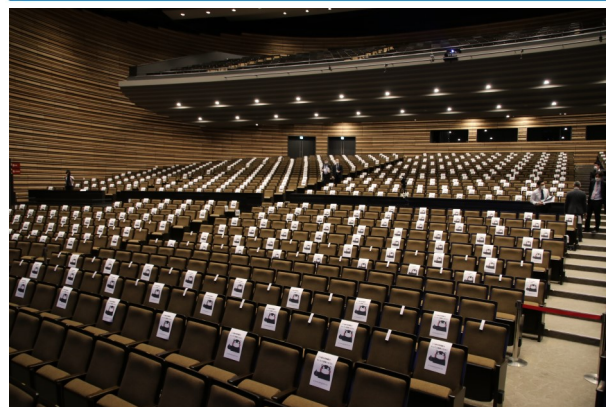
受付ブースには飛沫防止のためのビニールシートを設置しました。



会場に通じるエスカレーターの利用は、前の方と一段空けて左右交互に立っていただくようお願いを掲示しました。



客席への取組



約2,300席の会場に対し、参加規模を800名以下に縮小しました。

参加者の席はブロック又は支部ごとに区域指定とし、また、座席と座席の間を荷物置き場として間隔を空け、マスクを着用したくまモンで表示しました。

なお、熊本県からの指示により、登壇者席を最前席一帯とし、その席一帯から2列空けた席から参加者席としました。

登壇者への取組

登壇者数は例年の大会の半分以下とし、席の間隔を十分に取りました。

また、演台の消毒及びマイクの交換・消毒をご挨拶の度に行いました。



ご挨拶の度、演台とマイクを消毒しました

混雑緩和への取組

大会終了後の参加者退場時の混雑を避けるため、座席ブロックごとに退場いただきました。

安全衛生教育推進による 災害撲滅への取組み

2021年11月11日



九州産交運輸株式会社

1. 会社概要

会社名 九州産交運輸株式会社 (Kyusyu Sanko Unyu Co.,Ltd.)

所在地 〒862-8635 熊本県熊本市南区流通団地2丁目20-3

本社連絡先（代表） 電話：096-377-2135 FAX：096-379-2692

創業 1942年（昭和17年）8月 8日

設立 1978年（昭和53年）9月18日

代表者 吉田 浩一 （よしだ こういち）

資本金 1億円

株主 鴻池運輸株式会社（東証一部上場9025）

従業員数 540名

車両台数 330台

事業所数 28拠点

年商 70億円

主な事業内容 貨物自動車運送事業（特別積み合せを含む）

貨物利用運送事業（鉄道、航空、内航）

貨物軽自動車運送業

特別管理産業廃棄物収集運搬業

倉庫業 通関業 特定信書便事業

医薬品卸売販売業 動物用医薬品販売業

役員 代表取締役 吉田 浩一

専務取締役 岩佐 知道

常務取締役 古澤 祐司

監査役（非常勤） 大谷 貢



九州産交運輸は、KONOIKEグループの企業です。

KONOIKEグループは、物流の枠を超え、製造、空港業務などを通じ、社会課題の解決と革新に挑戦し続けるプロフェッショナル集団です。

<KONOIKEグループの経営理念>

「人」と「絆」を大切に、社会の基盤を革新し、新たな価値を創造します

人を大切にして、人から好かれる。私たちはその尊い価値を知っている。

お客様、生活者、従業員、家族、株主、投資家。

私たちがつながっている、大切な人々を想い続け、真の絆を築く。

それは、人と社会の期待を超える、本物の挑戦を可能にする。

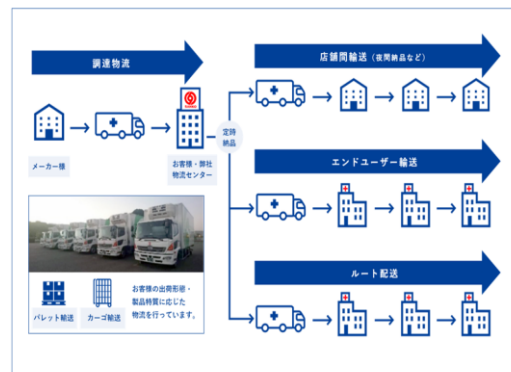
革新していこう、社会の基盤を。創造していこう、人々の暮らしに新たな価値を。

九州産交運輸株式会社 経営信条

1. 事業を通じて社会に奉仕する
2. 人の和をもって事業を興す
3. 顧客の利便を図る
4. 従業員の生活安定向上を図る
5. 適正利潤を確保する

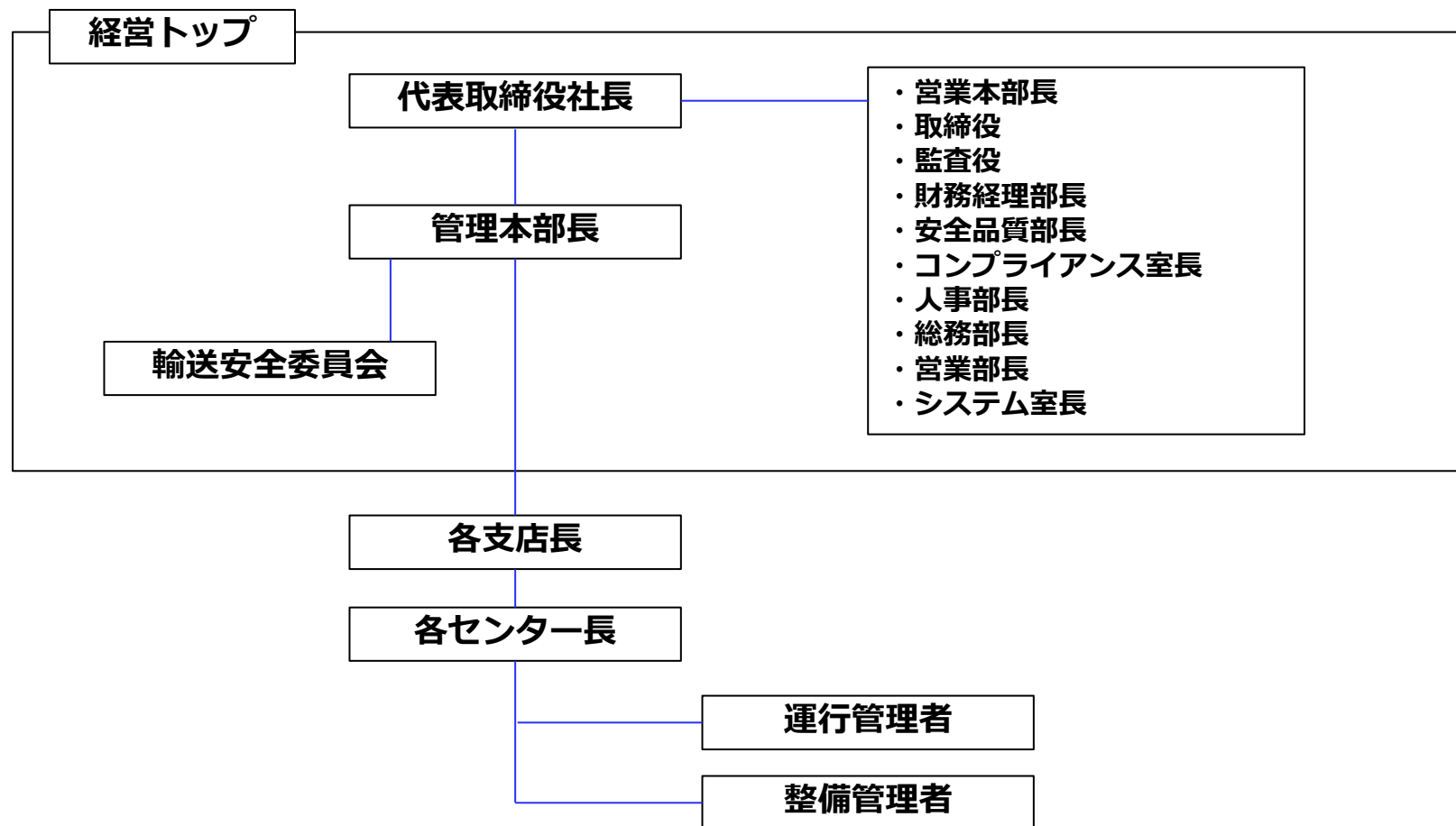
3. 事業紹介

熊本に生まれ九州で育てられた九州産交運輸は、地域社会の発展に目を向けて歩んできました。
変貌を続ける社会において、グローバルな見地から愛される企業を目指し、
これからも地域社会への貢献に取り組んでいきます。



4. 安全管理体制

運輸安全マネジメント（輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統）



経営トップをはじめ、会社全体で「輸送の安全確保」に取り組んでいる。

5. 2021年 安全活動計画

1. 人・二輪車発見時の一旦停止及び減速走行と発進時、交差点通過時、右左折時の呼称確認の実施
2. 構内(納品先・集荷先)のリスクアセスメントと事故の撲滅<事業所独自のルール決め>
3. 新規採用ドライバーのフォローアップ教育(1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月)の実施
4. 「運転者に対して行う指導及び監督の指針」(国交省1366告示)に基づく年間計画の実施と徹底
5. 協力会社の管理と指導
6. モービルアイ(衝突防止補助システム)の追加導入による自動車事故の未然防止

月	実施事項	月	実施事項
1月	・「年始の輸送等に関する安全総点検」の実施 ・年末年始交通事故防止キャンペーン<組合共催>	7月	・全国安全週間<7月1日～7月7日> ・第34回 フォークリフト運転競技大会 ・第40回 熊本県トラックドライバーコンテスト
2月	・貨物事故防止意識強化旬間<組合共催>	8月	・「うっかり事故防止キャンペーン」の実施<7月1日～8月31日> ・貨物事故防止意識強化旬間<組合共催>
3月		9月	・秋の全国交通安全運動の実施<9月21日～9月30日> ・第35回全国フォークリフト運転競技大会
4月	・春の全国交通安全運動の実施 ・協力会社への安全指導	10月	・労働災害防止強調週間<組合共催> ・第52回全国トラックドライバー・コンテスト ・鴻池グループトラックドライバーコンテスト、フォークリフト運転競技大会
5月	・フォークリフト運転業務従事者ブラッシュアップ研修 ・協力会社への安全指導	11月	・100日間無事故チャレンジ運動<11月1日～1月8日>
6月	・労働災害防止強調週間<組合共催> ・「積卸作業指揮者」の研修 ・モービルアイ(衝突防止補助システム)の設置	12月	・100日間無事故チャレンジ運動<11月1日～1月8日> ・「年末の輸送等に関する安全総点検」の実施 ・年末年始交通事故防止キャンペーン<組合共催>

6. 各種教育の実施

管理職	作業職	運転職
・ 職長教育 ・ 積卸作業指揮者講習 ・ はい作業主任者講習 ・ 運行管理者講習 ・ 整備管理者講習 	・ フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育 ・ はい作業主任者講習 ・ 積卸作業指揮者講習 ・ 車両系荷役運搬機械等作業指揮者講習 ・ フォークリフト運転競技大会研修 	・ 入社時教育 ・ 初任運転者教育 ・ 適性診断 (初任, 一般, 適齢) ・ 添乗指導 ・ 事故惹起者教育 ・ 事故再発防止検討会 ・ ドライバーコンテスト研修 

7. 積卸作業指揮者講習の実施

2018年2月、陸災防インストラクター講座を福田、八浪の2名が受講。

＜積卸作業指揮者講習を社内で実施＞

座学



リスクアセスメント



ハンドリフトの取扱い

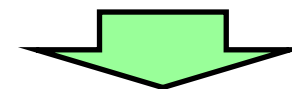


ロールボックスの取扱い



＜受講状況＞

年	受講者	講師
2017	20	鴻池運輸 安全品質研修センター
2018	15	安全品質部 福田、八浪
2019	0	
2020	14	安全品質部 福田、八浪
2021	3	安全品質部 福田、八浪
計	52	



対象となる全ての事業所に
作業指揮者を配置

8. フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育の実施

安衛法第60条の2 危険・有害業務のフォークリフト運転業務従事者の安全衛生教育を5年毎に実施。

座学（厚生労働省の教材）



点検（リーチ）



点検（カウンター）



実技



＜受講状況＞

年	受講者	開催回数
2016	27	6回
2017	16	4回
2018	13	3回
2019	14	2回
2020	12	2回
2021	10	2回
計	92	19回

9. フォークリフト運転競技大会参加者の研修

熊本県大会

これまで35回の大会に延べ61名が出場し、13名が優勝。



全国大会

熊本県大会で優勝した13名が出場し、1名が5位入賞。



鴻池グループ大会

過去5年間、毎年出場し、1名がカウンター部門で優勝。



大会出場者が職場に戻り、経験を活かし、知識・技能の水平展開を実施。

10. トラックドライバー・コンテストへの参加者の研修

熊本県大会

これまで41回の大会に
延べ100名が出場し、
19名が優勝。



全国大会

過去19名が出場し、
1名が3位入賞。
2019年女性部門で出場
した福島奈瑠海さんが
全選手代表で選手宣誓
を行った。



鴻池グループ大会

過去3年間、毎年出場し、
1名が大型部門で優勝。



大会出場者が職場に戻り、経験を活かし、知識・技能の水平展開を実施。

11. トラック、フォークリフトの安全対策

トラック (300台)		フォークリフト (61台)
デジタコ 	ドラレコ 	ドラレコ 
バックアイ 	モービルアイ 	回転灯、ブルーライト 

※業務連絡車 (19台) にクラウド型ドライブレコーダーを設置

大きな事故やクレームの減少、運転者の労働災害防止に大きな効果。

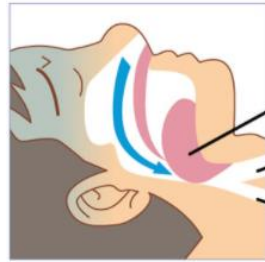
12. 睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査の実施

SASとは
通常の呼吸



気道が開いているので呼吸
ができる

無呼吸症候群(SAS)



舌の付け根が気道
をふさぎうまく呼
吸が出来ない

パルスオキシメータで検査

寝る前に、
利き手と反対の手首に取り付けます。



測定結果を医師が判定

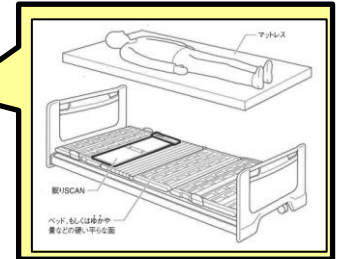
D+判定
要精密検査

D判定
再検査

問題無し
経過観察

医療機関で
外来診察
(費用を会社負担)

パラウント製の
眠りCAN
で再測定



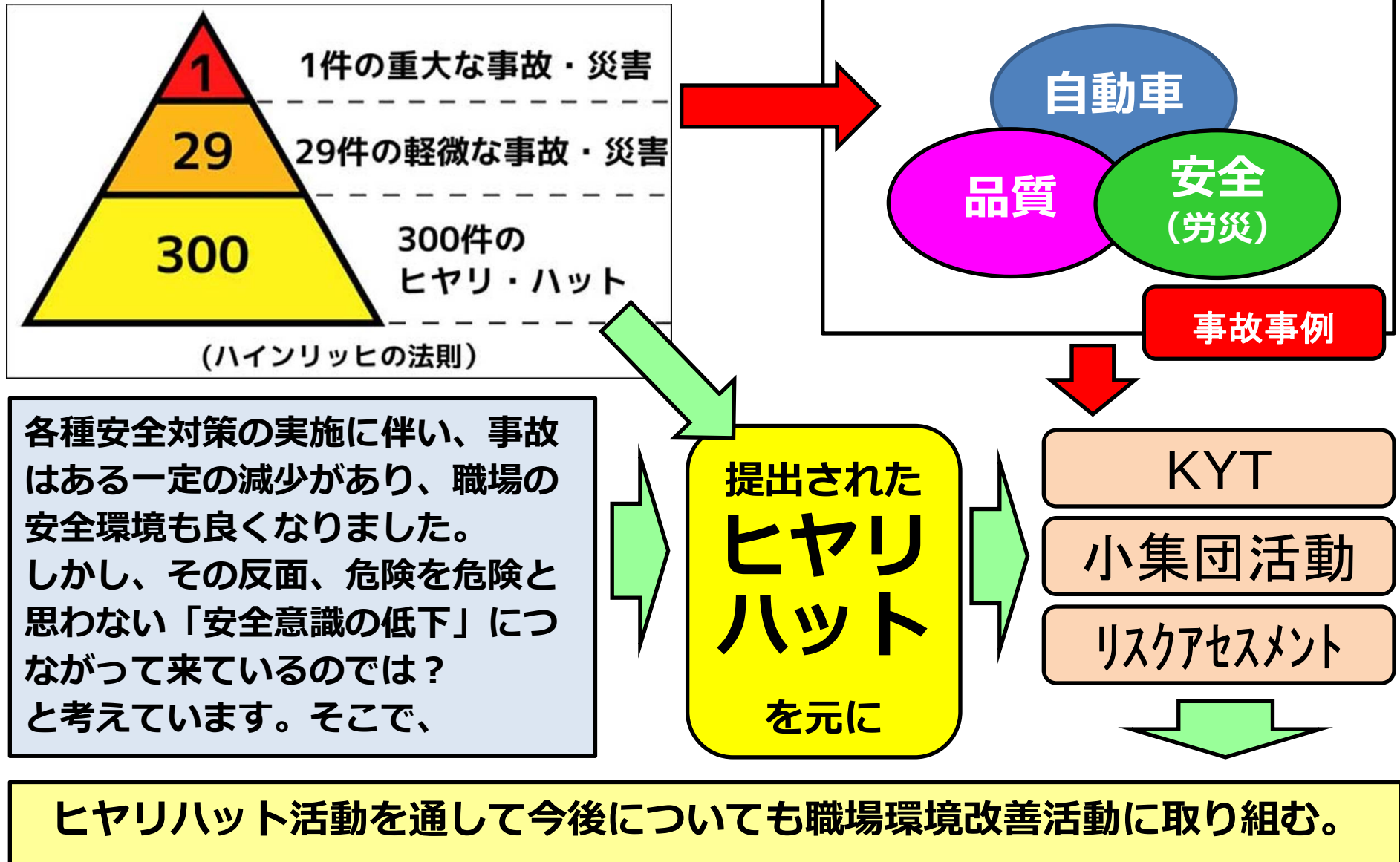
治療

カウンセリングチェック

3年毎に1回、全ドライバーに検査を実施

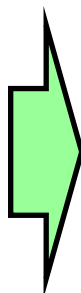
睡眠が浅くなり、質の良い睡眠が取れず、日中深い眠気を感じたり、突然意識を失う事がある。

13. ヒヤリハット活動の実施



14. 安全性優良事業所認定証（Gマーク）の取得

2021年度時点で対象となる17事業所全てで認定を取得

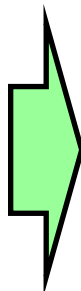


県	事業所	県	事業所
兵庫	関西センター	熊本	熊本コンテナセンター
福岡	北九州センター		熊本センター
	福岡センター		天草事業所
	中九州センター		熊本食品センター
佐賀	佐賀事業所	鹿児島	松橋センター
	鳥栖センター		鹿児島センター
長崎	長崎センター		栗野食品センター
大分	大分事業所		霧島センター
宮崎	宮崎センター		

今後も更なる「安全な運行管理体制の継続」に取り組んで参ります。

15. 働きやすい職場認証制度

2020年度の審査で20事業所で「一つ星」認証を取得



県	事業所	県	事業所
熊本	本社	熊本	熊本コンテナセンター
兵庫	関西センター		熊本センター
福岡	北九州センター		天草事業所
	福岡センター		熊本アグリセンター
	中九州センター		熊本食品センター
佐賀	佐賀事業所	宮崎	松橋センター
	鳥栖コンテナ事業所		宮崎センター
	鳥栖センター	鹿児島	鹿児島センター
長崎	長崎センター		栗野食品センター
大分	大分事業所		霧島センター

更なる「働きやすい安全な職場環境づくり」に取り組んで参ります。

九州産交運輸株式会社は、「安全」を最優先とし
「人」と「絆」を大切に物流のプロフェッショナル集団として、
今後もたゆまぬ努力と挑戦を続け、お客様に信頼される企業を
目指します。



ご安全に



九州産交運輸株式会社